

## 第 29 回 反核医師のつどい in 長崎アピール

### 長崎を戦争による最後の被爆地に

1945 年、8 月 6 日午前 8 時 15 分、史上初の原子爆弾が広島に投下された。その 3 日後、8 月 9 日午前 11 時 2 分、2 発目の原子爆弾が長崎に投下された。

2 つの都市は焦土と化し、20 万人を超える人命が一瞬にして奪われた。空は原爆雲に覆われ、大地には黒い雨が降り注いだ。生き延びた人々も放射線による原爆症におかされて次々に斃れた。

その後、米ソの核開発競争は激化し、度重なる核実験は全世界を汚染した。マーシャル諸島ではビキニ環礁の水爆実験で罪もない島民が被曝し、第五福竜丸は死の灰を浴びた。世界各地の核実験場は放射能で汚染され、地域住民のみならず、実験に参加した兵士たちに苦しみを与えた。

一方で、原子力の「平和利用」として核発電所が全国に建設され、「安全神話」がふりまかれた。しかし、神話は崩れた。東日本大震災によって福島第一原発はメルトダウンし、大量の放射能汚染を引き起こした。事故後 7 年立っても収束のめどは立っていない。避難指示は解除されても、失われた住民の生活は帰ってこない。

原爆投下から 73 年たってもなお、被爆者は放射線の後遺症に苦しみ、発病の恐怖と闘っている。生涯を核廃絶に捧げ、昨年亡くなった、赤い背中で知られる被爆者、谷口 稜暉（すみてる）氏の悲願は長崎を最後の被爆地にすることだった。

核兵器と人類は共存できない。核兵器の廃絶を願う国々と市民社会の運動によって、昨年、国連で核兵器禁止条約が採択された。さらに、ICAN がノーベル平和賞を受賞した。ヒバクシャ国際署名は 800 万筆を超え、高校生平和大使も頑張っている。核放棄を宣言した北朝鮮の今後の動向も注目される。

今、世界は核廃絶に向けて確実に歩み初めている。この大きなうねりを絶やすことなく、ここ被爆地長崎に平和の鐘を高らかに鳴らし、核兵器禁止条約の発効で、核のない世界の実現を目指したい。

2018 年 11 月 4 日

第 29 回 核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 長崎 参加者一同